

■今月の特選句

2016年3月

暴走の腕は一流成人す

高橋きのこ

「一流」のプラスイメージと「暴走」のマイナス。「腕」もプラスですから、二重の裏切りがあり滑稽味が倍増したね。「入学す未熟人間一流へ」。

鶯に口説かれ梅の狂ひ咲き

岡野 満

鶯は梅を口説いたりしない。なんて言う人は「詩心」がない御仁。「鶯に口説かれ上手梅の花」「鶯や法華経で梅口説きぬる」なんかどう。

冬将軍に参ったかテロの衆

秋月裕子

「テロの衆」とはアイエス？それとも日本近隣の独裁国でしょうか。食糧がなくても寒くても、ミサイルがあるから冬将軍なんて怖くないらしいッスよ。

切干と呼ぶ大根のなれのはて

梅岡菊子

「なれのはて」なんて森進一の「新宿港町」みたいだ。切干大根を褒めるのにマイナスイメージの用語を使う高等技術がいいですね。

春うごくボンと光つて写真館

工藤泰子

「ハトが出ますよ～」ボン。昔は写真の照明にマグネシウムを焚いたが、ストロボの登場で引退となった。「卒業の写真を撮られ眼がチカチカ」。

鳥帰る大気汚染の大陸へ

鈴鹿洋子

「鳥帰る」の季語に大気汚染を詠んだ句はない。句の根底に鳥への愛情も垣間見ることができる。「マスクしてあげたい北へ帰る鳥」。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|-------------------------------------|-------|
| 二月尽あとで気が付くうるう年
・・・一日多く調子くるう年 | 伊藤洋二 |
| 親父ギャグ冬將軍をも凍えさす
・・・防寒不要の冬將軍も | 小川鮎太 |
| 握手する二人を抜けて隙間風
・・・抜ければすぐに隙間を閉じる | 金澤 健 |
| ほろ苦きバレンタインのお裾分け
・・・チョコではなくて落の臺かも | 菅野あたる |
| 重箱の隅を突いて食べる節
・・・とかくこの世はせちがらいもの | 伊藤浩睦 |
| 年金の増へることなし葱刻む
・・・泣けてくるのは葱の香のため？ | 赤瀬川至安 |
| 梅一輪暖冬を憂いつ喜びつ
・・・寒暖差なら一輪ほどに | 池田亮二 |
| 生き方に日向日蔭や諸葛菜
・・・ご都合主義の半日陰かも | 越前春生 |
| 着ぶくれて胸腹腰のくびれ消え
・・・くびれははじめからなかったよ | 花岡直樹 |

湯ざめせし犯人はこのミステリー
・・・そりや冤罪と刑事コロombo

小林英昭

ひそひそと悪事を謀る息白し
・・・腹の黒きも息の白くて

久我正明

格子戸を全開にして冴え返る
・・・閉じても寒さ変わらぬ格子

高田敏男

平成の鬼打ち豆も袋入り
・・・食わず結局お蔵入りかも

奥脇弘久

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 着ぶくれて欲なし夢なし菓飲む
むしゃくしゃをみじん切りして葱刻む
夫送りも一度咲こう返り花 | 青木輝子
青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 風花や杳(はる)かな御身にひとひらを
凍結の湖面に鱉(ひび)や御神渡り
白酒の切れぬまま年ゆけり | 青山桂一
青山桂一
青山桂一 |
| 【佳作】 | 女正月急いで帰つても一人
と言ひつつしよつつるをつつきをり | 赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 同い歳話がはずむ初氷
あんよは上手雪道歩く通勤者 | 秋月裕子
秋月裕子 |
| 【佳作】 | 「ああ」言へば「こう」云ふ夫と春炬燵
佐保姫が一糸まとはず駆け回る
拙僧の庭は売るほど雪残る | 飯塚ひろし
飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | コップから溢れる酒もおでん酒
凧は空のストレス爆発す
節分の老いて引き算豆の数 | 井口夏子
井口夏子
井口夏子 |
| 【佳作】 | 雪と石だるま大師と地藏さま
元日の酔つて寝惚けて日の暮れて
いつもより余計に回る寄席の独楽 | 池田亮二
伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 凸凹の命をつなぐ猫の恋
五線譜をワルツで泳ぐ蝌蚪かな | 伊藤洋二
伊藤洋二 |
| 【佳作】 | 大空のここまで来よと凧揚がる
梅一輪いちりんほどの光あり
まずお辞儀最後もお辞儀初電話 | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 去勢され知る由もなし猫の恋
平日や年男皆退職者
カニ鍋をワニ鍋と聞く遠き耳 | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| | 春愁の理由におでこのニキビかな
階段でこけロングコートの美人かな | 上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】 | もの落とすことに敏感受験生 | 上山美穂 |
| 【佳作】 | 洩る音の幽けし卒業式
霾(つちふる)や鼻べつちやりの磨崖仏
涅槃図の猿を呼び出し先づ一献 | 氏家頼一
氏家頼一
氏家頼一 |
| 【佳作】 | 虎が雨季語のドラマに想い馳せ
お座敷小唄の調子で揺れる三味線草 | 梅岡菊子
梅岡菊子 |
| 【佳作】 | 親よりも長き脛もて卒業す
口の中に入れ歯なじまず木の芽和 | 越前春生
越前春生 |
| | おじさんのスキップもつれ春うらら | 岡野 満 |
| 【佳作】 | 春近し信濃へ誘う真田丸 | 岡野 満 |
| | 池の亀氷に亘固めされ | 小川純太 |
| 【佳作】 | 布団から抜け出る度にボケが増し | 小川純太 |
| 【佳作】 | 風評は我聞せずと落椿
恋猫やさ迷ふ風情ちと見せて | 奥脇弘久
奥脇弘久 |
| | 深酒の罪背負ひ切れぬ蜆汁
血糖値どうあれバレンタインの日 | 加川すすむ
加川すすむ |
| 【佳作】 | 子をダシに待つ静ひの雪解かな | 加川すすむ |
| | 入学のスキップに鳴るランドセル | 笠 政人 |
| 【佳作】 | 飛火野の下萌を踏む土踏まず
羽化の蝶憂世の風に身震ひす | 笠 政人
笠 政人 |
| | 寒波来と水道管にコート着せ
サッカーとテニスに眠れず寒の夜 | 加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】 | 春を忘れず梅を忘れず小鳥群れ | 加藤澄子 |

	ひつじ田や離れて見れば青に見え	門屋佐多務
【佳作】	初雪や各々葉っぱにしがみ付き	門屋佐多務
	北風や温水プールでウォーキング	門屋佐多務
	冬出窓仕置のやうに皿置かる	金澤 健
【佳作】	主人より似合ひし犬のちやんちやんこ	金澤 健
	雪晴の朝の公園独り占め	川島智子
【佳作】	百歳も夢でなくなり寝枕	川島智子
	梅が香につと爪立ちし腰伸びる	川島智子
	香箱を作る間のなき猫の恋	菅野あたる
【佳作】	おーいお茶はトレードマーク利休の忌	菅野あたる
【佳作】	別れたらきつと海鼠になってやる	久我正明
	来年の暦をめくるお正月	久我正明
【佳作】	料峭のふくと万福招き猫	工藤泰子
	よめがはぎ荒神さんの荒物屋	工藤泰子
【佳作】	おちよぼ口程にはほころび梅の花	小泉花子
	雪だるま八起きは難し昼下がり	小泉花子
	今朝起きて玄関開けたら雪だった	小泉花子
【佳作】	足あとでわかる千鳥の下戸上戸	小林英昭
	白鳥の追っかけのある楽屋口	小林英昭
	新年や厨に「火気の元火止る」像	佐野萬里子
【佳作】	初みくじ大吉恋の成就すと	佐野萬里子
	年明や月に惑星寄り添へる	佐野萬里子
	蓋開けて春立つ磯を眺む貝	下嶋四万歩
	涅槃図の外にあふるる野次の衆	下嶋四万歩
【佳作】	先生と思へし顔も卒業す	下嶋四万歩

【佳作】	歳暮かと判子渡せばマイナンバー 鱈場蟹食うた語らう孫自慢 わあ凄いいと夢に姫始	壽命秀次 壽命秀次 壽命秀次
【佳作】	着ぶくれてよりは悪役押し通す 垣根越し回覧板や春隣 吾が影の八頭身や日脚伸ぶ	白井道義 白井道義 白井道義
【佳作】	左から袖通す癖厚着の子	鈴鹿洋子
【佳作】	空見上げる仕草 年かな こんもりバラ活ける心の中へ みんなで決めたA案賛成 木の匂い	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
【佳作】	春雨と傘屋の前をぬれて行く 峠茶屋鶯笛にだまされて	高田敏男 高田敏男
	恋猫の家路ははるか摩天楼	高橋きのこ
【佳作】	下萌の悲鳴聞こえず土手すべり	高橋きのこ
【佳作】	ひやとひの酔ひ潰れたる冬銀河 老人の詩の殿堂の布団かな 冬帝の猛威ふるう事なかりけり	田中 勇 田中 勇 田中 勇
【佳作】	ぐつりぐつり豆腐躍らせ掘炬燵 ポインセチア何でも屋にて越冬す 大寒や身を屈ませてひと日暮る	田中早苗 田中早苗 田中早苗
	運試し年賀はがきで初投句	田村米生
【佳作】	ゴミ出し場一番乗りの寒鴉 ジョギングの人に尋ねる焼芋屋	田村米生 田村米生
	不合格インフルエンザのせいにする	津田このみ
【佳作】	恵方巻き恵方知らずにかぶりつく 節分の鬼の役目はいつもパパ	津田このみ 津田このみ
	熱爛を持つ手を離し笑ふ人	土屋泰山
【佳作】	横綱の二人倒して初相撲 トナカイに老子誘はれ山眠る	土屋泰山 土屋泰山
	蓬餅何処から食おうか二口目	都吐夢
【佳作】	春眠が惰眠に変わる朝八時 肩に腰継ぎ接ぎだらけの春来る	都吐夢 都吐夢
	形見てふ日めくり日記書初め	飛田正勝
【佳作】	食ひ切れず鬼と分け合ふ年の豆	飛田正勝

	三児みな半熟好み寒卵	飛田正勝
	着ぶくれて後ろ姿はだるまかな	中井 勇
【佳作】	鍋囲む奉行に殿と家来達	中井 勇
	霜柱私も欲しい六センチ	中井 勇
	くさめ一つ大きく放ち年を取る	新島里子
	ダックスフントいよよ胴長四温晴	新島里子
【佳作】	頬かむり似合ふ齡となりにけり	新島里子
【佳作】	魚は氷に上り干物は網の上	西をさむ
	ひよっとして恋の始めか春の風邪	西をさむ
	伊勢参するもしないもええじゃないか	西をさむ
	アグネスと相撲軍配木枯に	花岡直樹
【佳作】	大寒に氷点ビール冴えわたり	花岡直樹
	ひとりごつけなげなルンバ鬼の豆	原田 曄
	成人の日のあしたや疾駆せる裳裾	原田 曄
【佳作】	双六や徘徊癖を遺憾なく	原田 曄
【佳作】	着膨れて句座に狸や狐やら	ひがし愛
	藁苞に鎮座まします寒牡丹	ひがし愛
	以心伝心孤高を保つ風信子	ひがし愛
	寝返りに血流戻し朝寝かな	久松久子
【佳作】	亀の肢休めの形水温む	久松久子
	寄居虫(やどかり)や生涯借家税もなし	久松久子
【佳作】	寒鴉首をすぼめて世を拗ねる	日根野聖子
	冬の空めくれば春の空となる	日根野聖子
	冴返るなりシャッターの灰色に	日根野聖子
	初夢や泣きをる嬰のもらす尿	藤岡蒼樹
	銀貨幣にせもの値お年玉	藤岡蒼樹
【佳作】	歯並びに銀埋む愛嬌初笑	藤岡蒼樹

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| 【佳作】 | 寝正月寝ぐせと共に過ぎけり
ゆるキャラの御慶が並ぶテレビかな
かるた取りフェイントうまさ父が読む | 藤森荘吉
藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 烈風に雨戸叩かれみる寒夜
野梅咲く柳生の里の窯にかな
幼子の怖じ気つつ撒く鬼の豆 | 藤原セツ子
藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 悴む手一体何を掴もうや
凍みる手で小銭数えるもどかしさ
荒れ狂う白き魔女かや吹雪かな | 細川岩男
細川岩男
細川岩男 |
| 【佳作】 | 春光を畳の部屋に手招きす
節分や鬼もまねしてイナバウアー
爆買に縁なき日々や炬燵人 | 細川寛子
細川寛子
細川寛子 |
| 【佳作】 | 駄句一つ出して選受く初句会
福袋欲のあれこれ詰めてある
初吟行懐炉はりたる足をもて | 本門明男
本門明男
本門明男 |
| 【佳作】 | 猫だんご見て知る今朝の氷点下
雪の宿より招かれる誕生日
ぬくいねと春の火鉢に抱きつきぬ | 松井寿子
松井寿子
松井寿子 |
| 【佳作】 | 雪だるまに性別付けるべく議論
女房もともに無頼や厄落し
霜柱蹴りたくなってやはり蹴る | 松井まさし
松井まさし
松井まさし |
| 【佳作】 | 炬燵入る付属品のごとひもすがら
放たれて園児散らかる春の土手
見事なる毛ばりなれど鮎の来ず | 三橋百笑
三橋百笑
三橋百笑 |
| 【佳作】 | まんさくの空の青さよ風見鶏
大寺に猫まるまると木瓜の花
いつせいに帽子脱ぎたる猫柳 | 宮森 輝
宮森 輝
宮森 輝 |
| 【佳作】 | 長電話葛湯できたと茶の間から
息白し背中の吾子の欠伸
闇夜汁誰そ目玉をすすする音 | 百千草
百千草
百千草 |
| 【佳作】 | 手土産のひとつとなりし春一番
霜柱世界の騒ぎに顔を出す
雲の空中分解あられ玉 | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |

	春キャベツ食べるや馬の顔をして	八木 健
【佳作】	失恋の味とほめられ露の臺	八木 健
	バレンタインかな人前でチョコを出し	八木 健
	好色が生き甲斐なりと山眠る	八洲忙閑
【佳作】	日脚伸び一寸五分の影法師	八洲忙閑
	五月蠅きはバレンタインの義理だから	八洲忙閑
	妖精の今や妖怪寝正月	柳 紅生
	顔面に脳の皴現れ大試験	柳 紅生
【佳作】	下半身より声を出す恋の猫	柳 紅生
【佳作】	悪辣な手法のありき落椿	柳澤京子
	見ておりぬ天の神様雪真白	柳澤京子
	猫の背中霰積もりてかけ寄りぬ	柳澤京子
	木枯らしの人払ひして独り占め	山下正純
	雨宿りできぬ木立に雨宿り	山下正純
【佳作】	椿問ふ首残すもの落すもの	山下正純
【佳作】	極寒の竿に奴となる肌着	山本けい子
	銀行にお札のごとく枯葉寄る	山本けい子
	鬼の豆夫婦合わせて一六三粒	山本けい子
	往生や節分豆が靴の中	山本 賜
【佳作】	梅見茶屋みたらし団子はひらがなで	山本 賜
	立春やホタテがのどを通りけり	山本 賜
	おぢけずに裸身を見せて枯葉脱ぐ	横山喜三郎
【佳作】	献血車成人祭の血気抜く	横山喜三郎
	十センチの雪に東京大混乱	横山喜三郎
	いまどきは隣家はばかり豆を撒く	吉原瑞雲
	勇気もち豆を撒けとは言うけれど	吉原瑞雲
【佳作】	豆を撒くほどの鬼サンいたかいな	吉原瑞雲